第65号
昭和45年2月1日

横芝広報

発行所
山武郡横芝町横芝636番地
横芝町役場
電話 04798—2—1111(代)
郵便番号 289—17

横芝町の人口と世帯

<12月31日 現在>

人口	12,336人
男	5,866人
女	6,470人
世帯数	2,853戸

昭和45年度

新春を飾る初出式

精鋭七百名出動して

横芝町新春恒例の消防初出式は、寒波をついて一月八日午前九時から横芝中学校々庭で華やかに挙行されました。

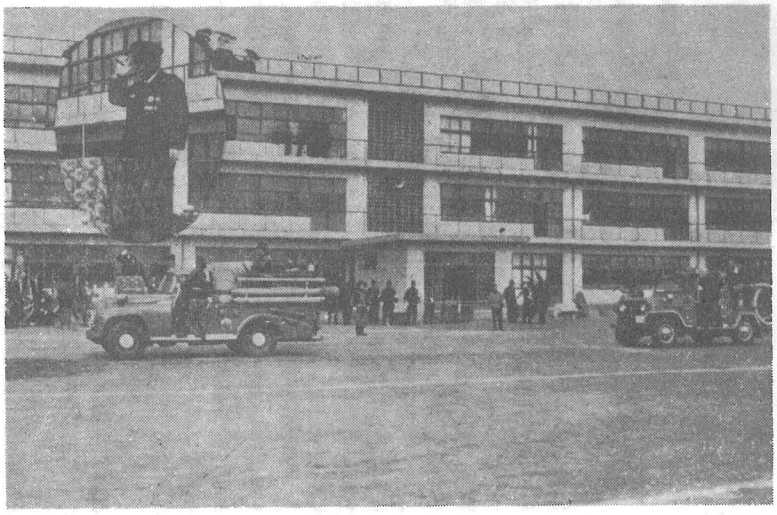
この日参加したのは、本部分団以下十四分団及び少年消防隊を含む、消防精鋭七百余名で、四輪、三輪の動力ポンプ九台、可搬ポンプ二〇台が校庭いっぱいに整然と配置につき、町民や来賓などが見守る中に、キビキビとした動作で見事な操法など、日頃の猛訓練の成果を遺憾無く披露してくれました。

式上、市原団長は「一、九七〇年代最初の年を迎え、我ら消防人は決意を新たにいよいよ消防精神の高揚に努め、今年こそ無火災横芝町を実現させよう」と団員に呼かける等、水火消防に挺進する団員の士気は天を突くの感がありました。

最後に来賓の祝辞につづいて、動務成績の優良な団員と消防に功労のあった方々に各種の表彰状が授与され、昭和四十五年の新春を飾る初出式は盛会裡にその幕を閉じました。

私たちは、消防団の方々の日頃のご労苦に感謝すると共に火事は絶対ださないように充分気をつけることが労苦に報いることと思います。

因みに表彰された方々は次のとおりであります。



「カシラー右」　消防自動車ポンプ分列行進

受章者芳名（敬称略）

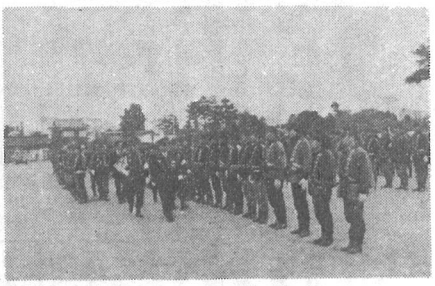
千葉県知事功労章
第六分団長　高橋　好孝

千葉県知事精勤章
第十二分団長　伊藤　要
本部分団第一部三木　茂
〃　三部　太田　実
〃　〃　伊藤庄三郎
第一分団一部　実川　利助
〃　二部　石渡　達男
第五分団一部　椎名　伴克
第六分団一部　斉藤　貞雄
〃　二部　伊藤　文夫
第九分団二部　田辺清二郎

千葉県山武支庁長章
第一分団長　菅　恒夫
本部分団二部　黒川　剛
第三分団一部　伊藤　正好
第四分団一部　秋葉　幹雄
第六分団三部　山室　実
第十二分団二部小安　明
第十四分団一部伊藤　金光

千葉県消防協会功労章
第五分団長　鈴木　貞司
本部分団一部　小高　謙次

千葉県消防協会精勤章
第三分団長　川島　幸



厳正に行なわれる服装点検

第七分団長　越川　武志
第八分団長　井上　信一
第九分団長　宇井　直幹
第十一分団長　永藤　尚己
第十三分団長　五木田　誠
第十四分団長　鈴木　繁雄

県消防協会郡支部長功労章
第二分団長　早川　昭
第四分団長　平山　貞治
第十分団長　小川　富雄

県消防協会郡支部長精勤章
第一分団一部　小川　友一
第一分団一部　早川　定一
第七分団一部　伊藤　兼次
第八分団一部　関　晃治
第十分団一部　小倉　昉
第十三分団一部伊藤　育治
第十三分団二部土屋　敏治

横芝町長感謝状
南川岸　佐瀬　哲司
〃　海保　寿夫
〃　菅　行雄
〃　石渡　達男
新島新田　秋山　和夫
〃　伊藤　冲
本郷　秋葉　功
栗山　山本　頼次
鳥喰下　市原　文夫
鳥喰沼　鈴木　良一
〃　田谷　定雄
両国新田　桜井　東男
〃　浅野　敏晴
〃　宇井　英雄
於幾　桜井　敏雄
〃　実川　一
〃　伊藤　伝
〃　子安　明
〃　桜井　常吉
遠山　小川　平充
〃　伊藤　衛
〃　伊藤　俊治
桜前　伊藤　紀勇
〃　小川　秀男
〃　五木田　一

横芝町消防団長表彰状
第一分団第一部
第九分団第二部
第十四分団第一部

横芝町消防団長感謝状
南　伊藤　武子
鳥喰新田　高橋　喜代
古川　景山　清江
〃　八角　とみ
〃　小杉　志げ
両国新田　吉田　いし
東町　藤崎　英一

横芝消防団長表彰状
本部分団三部　吉岡　実
（ほか五十名）